

区政Now！（令和2年9月号）

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

発行：荒川区

いじめごころ



子どもたちは未来社会の守護者であり、明日の荒川区を支える貴重な宝です。区では、これまで様々な視点から、多くの子育て支援策を展開してまいりました。

令和2年3月には、「みんなで支え合い、未来への夢と希望に満ち溢れた子どもたちの笑顔でいっぱいのもち あらかわ」を基本理念とした「第2期荒川区子ども・子育て支援計画」を策定しました。妊娠から出産、子育てまでを通じて切れ目のない支援を行うとともに、子どもの権利を守ることを基本に、子どもと子育て家庭に対する支援をはじめ、児童虐待の未然防止、子どもの貧困対策、困難を抱える若者の支援等を一体的に推進してまいります。

「荒川区の子どもは、荒川区が守る」の理念を掲げ、今後とも子どもとその家庭が安心して健やかな暮らしを送れるよう、全力で取り組んでまいります。

親子をサポートする取り組みを行っています。

区では、子どもに関する様々な相談や、子育てを応援する便利な情報が入手できる「あらかわすくすく子育てアプリ(母子モ)」の導入など、親子をサポートする取り組みを数多く行っています。

平成31年4月1日からは、妊娠届を提出したすべての妊婦を対象に、助産師・保健師が相談を受け、個別の支援プランを作成するゆりかご面接を行っています。今回、妊婦の方への新型コロナウイルス感染症対策として、これから妊娠届を提出される方 令和2年4月1日以降に妊娠届を提出された方 既に荒川区のゆりかご面接を受けており、令和2年4月1日時点で妊婦の方(令和2年4月1日以降に出産された方含む)を対象に、感染予防ハンドブック、妊婦の健康を支援するグッズ、こども商品券3,000円分等を詰め合わせたギフトセット(ゆりかごプラス)の配付を行っています。

子育てには、子どもの成長に応じて、不安なことや大変なことが多くあります。ひとりで悩まず、区にご相談ください。

今年も「福島の桃」の引き渡し会を開催しました。

7月28日、サンパール荒川にて、「福島の桃」の引き渡し会を開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症対策として、会場内に検温器や消毒液の配置、混雑緩和のため地区ごとに受取時間を変えるなど、工夫をしました。

毎年、福島産の桃のキャンペーンの一環として行われる福島市長による桃の引き渡しは、東日本大震災後の風評被害への応援として、福島産農産物の品質の良さや、安全性、そして変わらぬおいしさをPRすることを目的に行われています。

桃を購入した方は、「コロナに対する対策もしっかりされていたので、安心して購入できました。」と話してくれました。

会場に訪れた木幡福島市長からは、「今年はこの企画は難しいと諦めていたので、涙が出るほど嬉しいです。これからもご支援ご協力をよろしくお願ひいたします。」とあいさつがありました。今後とも、このようなイベントを大切に、福島市と荒川区の交流を、一層深めてまいります。



木幡市長と西川区長

主な事業

荒川区立日暮里地域活性化施設（ふらっとにっぽり）を令和3年1月に開館します。

現在、区では荒川区立日暮里地域活性化施設（ふらっとにっぽり）の建設を進めており、令和3年1月に開館予定です。この施設は「地域の皆さんに愛され、地域コミュニティをさらに醸成する場所」「繊維街を訪れた人が楽しみに立ち寄れる場所」「繊維街の魅力と相乗して地域を活性化する場所」をコンセプトとしています。

2階の創作室には、趣味として手芸や洋裁を楽しむ方にお使い頂けるミシンを設置し、ミシンの使い方を学ぶ教室や日暮里繊維街で調達した素材を活かしたワークショップ等の体験型イベントを行う予定です。

5階の工房には、服やバッグ、アクセサリー等を製作する方向けに、専門性の高い各種ミシンやデジタル加工機等を設置します。また、5階にはファッション関連産業分野で創業間もない中小企業または創業を予定している方の事業展開を支援するための創業支援施設を令和3年2月に開設予定です。詳しくは、経営支援課産業活性化係（3802-3111 内線457）までお問い合わせください。



施設ロゴ

新型コロナウイルス感染症対応 荒川区職業相談窓口を開設しました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による離職者等の就労を支援するため、JOB コーナー町屋内に「新型コロナウイルス感染対応 荒川区職業相談窓口」を開設しました。

この窓口では、ハローワーク足立や日暮里の専門ハローワークの専門相談員による相談・支援を受けることができます。また、同一フロアにある「わかもの」「女性」「シニア」の各就労サポートデスクと連携し、職業適性検査、応募書類作成、面接対策等の就職準備訓練を行います。

このほか、区役所本庁舎6階では、雇用調整助成金等の申請手続きの支援も行っています。お気軽にご利用ください。



相談窓口入り口

芸術文化団体によるアートワークショップを開催しました。

8月13日、ゆいの森あらかわで、東京藝術大学卒業生グループ「アブリユス」による、子ども向けアートワークショップ（立体造形体験教室）を開催しました。手指の消毒や検温等、新型コロナウイルス感染症対策も万全に行いました。

当日は、約8,000個の紙コップを1つずつ積み上げ、大きなタワーやお城等の立体作品を制作する「紙コップタワーワークショップ」を行いました。子どもたちは紙コップを慎重に積み上げ、失敗を繰り返しながらも協力して大きな作品を作り上げました。

やなぎはらえむ

アブリユス代表の柳原絵夢さんは、「子どもたちには、参加した友だちと一緒に何かを作り上げていくことを通じて、想像力と協調性を培って欲しい」と話してくれました。

今後とも、次代を担う子どもたちが自分の手で何かを創ることの面白さを見出し、想像力を育むことができる芸術文化活動のきっかけづくりに取り組んでまいります。



子どもたちの作品